

記 録

群馬県内におけるカタツムリトビケラの生地

土屋 清喜・宮原 義夫・峰村 宏

Sumiyoshi TSUCHIYA, Yoshio MIYAHARA and Hiroshi MINEMURA

カタツムリトビケラ *Helicopsyche yamadai* は群馬県では絶滅危惧Ⅱ類に指定(2002)されている。幼虫は殻径2mmほどのカタツムリ型の筒巣をもち、左右非対称、水量の少ない湧水や細流、水の滴る壁面などで確認されている。県内の生息地については、長谷井(1996)と高橋(1997, 1999)によって記録されている。

著者らは上記2者の記録にはない、桐生市黒保根町の2箇所で見つかり、生息を確認、「良好な自然環境を有する地域学術調査報告書」(群馬県 2008)で報告した。

この機会に、現在までの県内におけるカタツムリトビケラの確認地をまとめてみた(表1)。

表1 県内のカタツムリトビケラの生息確認地など

場 所	標高(m)	環 境	確認年月日	著 者
金山八王子丘陵		丘陵の小流の湧水域	1981.6.25	長谷井稔 (1996)
吾妻町矢倉		僅かな湧水のある小溝	1996.12.31	高橋 茂 (1997)
倉淵町権田丸沢			1997	高橋 茂 (1999)
松井田町土塩			1997	高橋 茂 (1999)
渋川市上郷			1997	高橋 茂 (1999)
前橋市嶺町			1997	高橋 茂 (1999)
桐生市黒保根町深沢川久良見沢右岸	530	小さい滝の水の滴る壁面、蘚苔類が繁茂	2006.6.21	宮原ほか (2008)
桐生市黒保根町本宿深沢川左岸	300	岩の斜面をしたたる小さな湧水：山小屋の飲料水に利用されている	2007.5.23	宮原ほか (2008)

なお、長谷井(1996)の記録には標高が記されていないが、筆者らが現地で確認したところ150mであった。高橋(1997, 1999)は水生貝類の採集時にカタツムリトビケラを採集したもので、筆者の宮原に同定を依頼、確認し報告しているが、一地点を除き場所の詳細と採集月日が記されていない。

カタツムリトビケラが県内での生息地が少ないのは、小型で発見しにくいことと、水生昆虫の調査で、細流や少量の湧水などは対象になることが少なかったためと思われる。今後、この種を対象とした調査が実施されるなら、生息地はさらに増えると思われる。

引用文献

- 群馬県(2002)群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編。190pp.
 長谷井稔(1996)太田市の自然環境と動物。太田市史通史編 自然、265-278。太田市。
 宮原義夫・土屋清喜・峰村 宏(2008)赤城南面 水生昆虫。良好な自然環境を有する地域学術調査報告書。XXXIV : 68-75。群馬県。
 高橋 茂(1997)カタツムリトビケラを採集。ちりぼたん、27(3, 4) : 84。日本貝類学会。
 高橋 茂(1999)カタツムリトビケラ(再録)。しぶきっぱ、No.20 : 29。にいがた貝友会。

(土屋 清喜 : [REDACTED] 宮原 義夫 : [REDACTED] 峰村 宏 : [REDACTED])

2010年6月30日受理